

報告事項ア

美術館の建設場所に関する県民意識調査について

美術館の建設場所に関する県民意識調査について、別紙のとおり報告します。

平成29年1月18日

鳥取県教育委員会教育長 山本 仁志

美術館の建設場所に関する県民意識調査について

平成 29 年 1 月 18 日

博 物 館

鳥取県美術館整備基本構想の策定にあたり、県立美術館の建設場所について県民の皆様がどのように考えておられるか把握し、鳥取県美術館整備基本構想検討委員会や鳥取県教育委員会がこれを選定する際の参考にするため美術館の建設場所に関する県民意識調査を行っていますので、その概要について報告します。

記

- 1 調査内容 別紙のとおり
- 2 対象者 市町村住民基本台帳から無作為で抽出した 16 歳以上の県民 5,000 人
- 3 調査時期 平成 29 年 1 月 6 日（金）から 1 月 27 日（金）まで
（1 月 6 日から順次調査票の発送を行いました。）
- 4 その他
鳥取県美術館整備基本構想検討委員会では、この県民意識調査結果を踏まえて 2 月上旬に第 12 回目の委員会を開催され、建設場所を選定するとともに、鳥取県美術館整備基本構想の最終報告をとりまとめられる予定です。

美術館の建設場所に関する意識調査 御協力をお願い

日頃から県政の推進に御協力いただき、厚くお礼申し上げます。

鳥取県教育委員会では現在、県立博物館の美術部門を独立させ、新たに美術館を整備するため、鳥取県美術館整備基本構想検討委員会（次ページ3参照）をお願いして、県立美術館の整備に関する基本的な方向性を取りまとめた構想の検討を進めていただいています。これまでの検討により、その構想内容の大半は固まり、先頃はこれについての県民意識調査も実施したところです。

しかし、美術館の建設場所については未だ結論が出ていないことから、今回の調査で、これまでの検討を踏まえつつ、県立美術館の建設場所について県民の皆様がどのように考えていらっしゃるのか把握し、同検討委員会や鳥取県教育委員会がこれを選定する際の参考にさせていただきたいと考えております。

調査対象は住民基本台帳から無作為に抽出した県内在住の16歳以上の5,000人の方です。お忙しいところ誠に恐れ入りますが、御協力のほど宜しくお願い申し上げます。

<御記入にあたってのお願い>

- 封筒のあて名の方、御本人 がお答えください。（この調査は無記名ですので、お名前を記入していただく必要はありません。）
- 始めに「美術館の整備を検討するに至った経緯」をお読みいただき、その後、調査票の質問に従って、当てはまる選択肢の番号を○で囲んで お答えください。（問8は□に○印を付けてください。）また、選択肢の中の「その他」に○をされた方は（ ）の中に具体的内容を記入してください。
- 調査の回答によって個人が特定されることや、お答えいただいた情報を調査目的以外に使用することは一切ありません ので、あなたの率直なお気持ち、お考えを御記入ください。
- 御記入いただいた調査票は、同封の返信用封筒に入れて、平成29年1月27日（金）までに郵便ポストへ投函してください。（切手は不要です。）
- この調査について御不明な点などがありましたら、下記まで御連絡ください。
[問合せ先] 鳥取県立博物館 総務課美術館整備推進担当
〒680-8570 鳥取市東町二丁目124
電話：0857-26-8042 ファクシミリ：0857-26-8041
電子メール：hakubutsukan@pref.tottori.jp

《回答いただく前に、美術館の整備検討の経緯を説明します。》

1 県立博物館は3つの分野（美術、自然、歴史・民俗）にわたる総合博物館として開館して以来40年以上を経過し、建物の老朽化、収蔵庫の狭あい化、駐車場の不足など深刻な問題を抱えています。

2 こうした問題を解決するためには、現施設の拡張等が必要になりますが、現在の施設は国の史跡指定地内にあり、大規模な増改築や敷地拡張は不可能なことから、鳥取県教育委員会では、美術分野を新たに整備する施設（美術館）に移転し、現在の施設を残る2分野（自然、歴史・民俗）のための施設に改修する方向で、その具体的な検討を進めることとしました。

3 そこで昨年度から、新たに整備する県立美術館の目的、機能、施設設備や建設場所、事業計画など美術館を整備する場合の基本的な事項について、美術館の専門家の方や利用者の立場を代表する皆さんで構成する「鳥取県美術館整備基本構想検討委員会」で、基本構想として取りまとめるべく検討していただいています。

4 去る10月には、これまでの検討により建設場所以外については構想内容がおおむね固まってきたことから、それについて今回の調査とは別に県民3,000人を対象に意識調査を実施したところ、その結果は次のとおりであり、回答者（対象者の49.2%）の7割前後の県民がこの基本構想に沿って美術館の整備を進めていくべきだと考えておられることがわかりました。

《前回の県民意識調査結果》

- ① 基本構想で整理された美術館の目的や機能についての考え方は、
適切である（66%）、おおむね適切だが更に留意すべき点がある（7%）、適切でない（2%）
- ② 基本構想で整理された美術館の施設設備や事業活動についての考え方は、
適切である（51%）、おおむね適切だが更に留意すべき点がある（13%）、適切でない（5%）
- ③ そのような美術館の必要性については、
必要であり整備を進めていくべき（45%）、どちらかと言えば整備を進めていくべき（31%）、
どちらかと言えば整備を進めるべきではない（3%）、必要がなく整備を進めるべきではない（3%）

5 これを踏まえて、県教育委員会では次のような在り方を目指す県立美術館の基本構想の中間とりまとめを行いました。（その概要は、別添パンフレットのとおりです。）

《新しい美術館の在り方（イメージ）》

- ① 「とっとりのアート」の魅力を知り、大切に守り、誇りを持って県内、県外そして世界へと発信するとともに、より多くの人々に内外の多彩で優れたアートに触れる機会を提供する。
- ② 人々が思い思いに楽しみと夢と喜びを見出すことができ、次代を担う子どもたちが優れたアートと出会い、想像力や創造性を育む場所となる。
- ③ 地域に根差し県民のアイデアと愛情で運営される、「私たちの県立美術館」となる。
- ④ アートによって街を目覚めさせて文化的感性の高い賑わいのある地域づくりに貢献する。
- ⑤ 鳥取県創生の拠点となるよう、大胆かつ柔軟に新たな可能性を求め、次代に向けて新たな地平を拓くことを目指す。

※こうした美術館とするためには、必要な機能を一通り備えた中核拠点として整備を進める一方で、その建設場所がどこになっても、県下各地の市町村や民間の文化施設等との結び付きを強化し、これらをサテライトのように機能させて広域的に連携した活動を展開していくことが重要になると考えています。

6 県立美術館の建設場所については、同検討委員会がその目的、機能、施設の在り方等から見て必要と考えられた条件（問7参照）に合う土地を市町村から推薦していただきました。そして推薦された候補地など13箇所について、当該条件に係る各分野の専門家を鳥取県立美術館候補地評価等専門委員に委嘱し、次のとおり半年近くにかけて慎重に調査・検討していただきました。専門委員の皆さんは13箇所を客観的かつ公平に評価された上で、他よりも建設場所に適している4箇所（問8参照）を選定されました。

今後その4箇所の中から、今回の意識調査の結果を踏まえ、上記3の検討委員会で建設場所1箇所を選定していただく予定です。

《鳥取県立美術館候補地評価等専門委員会の検討状況》

平成28年2月	評価の視点、進め方について検討
3月	市町村からの候補地推薦、専門委員が各候補地を現地調査
4月	候補地ごとの評価内容について検討
5月	上記評価内容に対する推薦市町村からの意見を踏まえて評価内容を再検討
6月	他より建設場所に適した候補地4箇所を選定

※以上の詳細については博物館ホームページ

(<http://site5.tori-info.co.jp/p/museum/intro/1/1/2/6/>) をご覧ください。

この調査票のみ同封の返信用封筒に入れて、平成29年1月27日（金）までに郵便ポストへ投函してください。

美術館の建設場所に関する意識調査票

問1 あなたの年齢に当てはまる番号を○で囲んでください。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1. 16～19歳 | 2. 20～29歳 | 3. 30～39歳 |
| 4. 40～49歳 | 5. 50～59歳 | 6. 60～69歳 |
| 7. 70歳以上 | | |

問2 あなたの居住地に当てはまる番号を○で囲んでください。

- | | | | | |
|---------|---------|---------|---------|----------|
| 1. 鳥取市 | 2. 米子市 | 3. 倉吉市 | 4. 境港市 | 5. 岩美町 |
| 6. 八頭町 | 7. 若桜町 | 8. 智頭町 | 9. 湯梨浜町 | 10. 三朝町 |
| 11. 北栄町 | 12. 琴浦町 | 13. 南部町 | 14. 伯耆町 | 15. 日吉津村 |
| 16. 大山町 | 17. 日南町 | 18. 日野町 | 19. 江府町 | |

問3 あなたの職業に当てはまる番号を○で囲んでください。

- | | | |
|----------------|----------------------|-----------|
| 1. 自営業（農業等を含む） | 2. 会社員（公務員、団体職員等を含む） | |
| 3. 主婦 | 4. 学生・生徒 | 5. その他（ ） |

問4 あなたは美術や美術館にどの程度関心がありますか。当てはまる番号を○で囲んでください。

1. 非常に関心がある。
2. 多少関心がある。
3. あまり関心がない。
4. ほとんど関心がない。

問5 あなたは県立美術館の整備に関する基本構想について検討が進められていることを、この調査の前から知っていましたか。当てはまる番号を○で囲んでください。

1. よく知っていた。
2. 多少は知っていた。
3. 全く知らなかった。

問6 問5で1又は2と回答された方にお尋ねします。あなたは、そのことを何によってお知りになりましたか。当てはまる番号を○で囲んでください。

1. 新聞の記事、テレビのニュース等
2. 県（博物館を含む）や市町村の広報紙やチラシ、ホームページ等
3. 県、市町村、関係団体等が開催した説明会、フォーラム、キャラバン等
4. 知人からの伝聞（SNS上のものを含む）
5. その他（ ）

問7 鳥取県美術館整備基本構想検討委員会では、新しく整備する美術館の建設場所は、次のような条件を備えた場所でないといけないと考えておられます。

これらの条件（それに沿って各候補地の状況を整理すると、別添資料のようになります。）の中で、あなたが特に重要だと思われるのはどれですか。当てはまる番号を○で囲んでください。（1～6から3つ以内を選んでお答えください。）

1. 交通アクセスが便利・容易で、様々な人々が気楽に訪れることのできる場所

《視点：例示》

- ・ JR 主要駅から近く、近隣に多くの路線バスが走る。
- ・ 幹線道路から近く、周辺道路も整備されており、観光バスやマイカーも多数乗入れ可能
- ・ 市街地から近く、途中に急坂等がなく、徒歩や自転車でのアクセスも容易

2. 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能で、様々な人々が気楽に訪れることのできる場所

《視点：例示》

- ・ 周辺住民がよく行く相当規模の物販・娯楽施設等（の集積）から近い。
- ・ 多くの観光客が訪れる集客施設（観光地）と結んで観光コースが設定可能

3. 他の文化施設や教育機関と連携し易い位置にあり、地域づくり・まちづくりと連携し易い場所

《視点：例示》

- ・ 来館者の相互利用が想定される文化施設に近く、一体的な文化ゾーン形成も期待
- ・ 児童・生徒、学生・研究者等が利用し易い（学校、大学等に近接 or アクセス良好）

4. 地域づくりにより貢献できる、地域づくり・まちづくりと連携し易い場所

《視点：例示》

- ・ 周辺に美術館と連携して発展可能な集客機能集積（商店街等）がある。
- ・ 地域再生の核等として地域計画等で文化、集客施設が必要とされている。
- ・ 市町村、地元経済団体、自治会等にも美術館と連携して地域再生を進める意思・意欲がある。

5. 必要とされる機能を備えた施設を整備可能で、必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所

《視点：例示》

- ・ 十分な広さの建物敷地や駐車場の他、適切な環境緑地や収蔵庫の増設余地等も確保可能
- ・ 土地取得費用が過大でなく、土地の切り盛り、造成等にも過大な経費を必要としない。

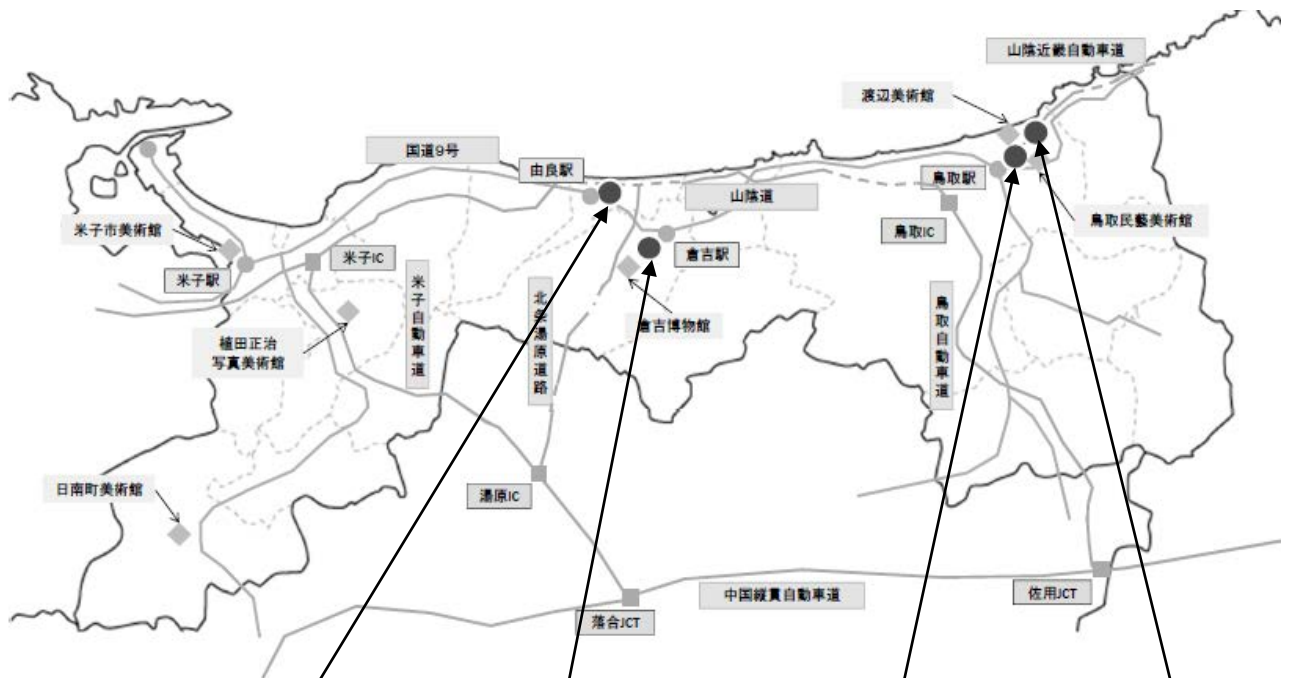
6. 防災上安全で、必要な機能確保・施設整備が極力安価で可能な場所

《視点：例示》

- ・ 津波、洪水、土砂崩落、地震等により被害を被る危険が少なく、地盤も堅固
- ・ 地盤改良、嵩上げ等に過大な経費を必要としない。

問8 鳥取県美術館整備基本構想検討委員会では、次の4つの候補地の中から建設地を選定しようとしておられます。これらの候補地のうち、あなたが新美術館の建設地として最も適切だと思われるのはどこですか。1ヶ所だけ選んでその下の口の中に○印を記入してください。

→ なお回答にあたっては、別添資料を参照してください。



旧鳥取県運転
免許試験場跡地
(北栄町：
コナン大橋北側)

倉吉市営ラグビー場
(倉吉市：
倉吉未来中心の隣)

鳥取市役所庁舎敷地
(鳥取市：
鳥取赤十字病院の隣)

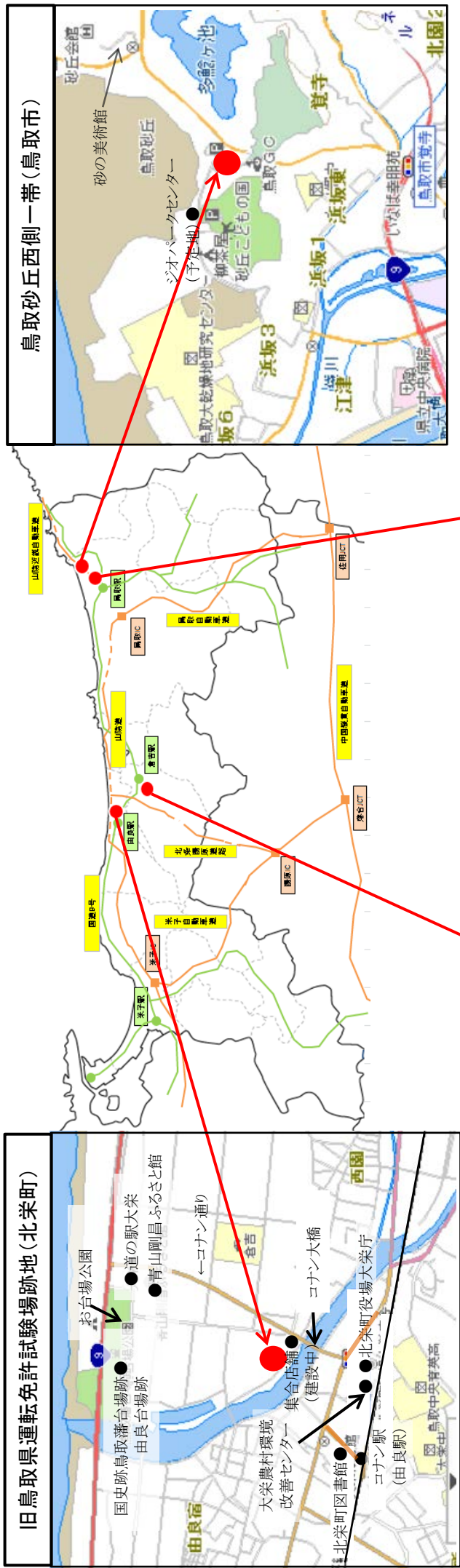
鳥取砂丘西側一帯
(鳥取市：
砂丘こどもの国の隣)

問9 よろしければ、問8で選ばれた候補地が最も適切だと思われた理由をお聞かせください。



鳥取県立美術館建設候補地比較資料

参考資料



旧鳥取県運転免許試験場跡地



鳥取砂丘西側一帯



倉吉市営ラグビー場



鳥取市役所庁舎敷地



この比較表の記載のうち、太字部分は鳥取県立美術館候補地評価等専門委員の評価、その他は候補地を推薦された市町の意見等に基づくものです。

候補地名称	旧鳥取県運転免許試験場跡地	倉吉市菅ラグビー場	鳥取市役所庁舎敷地	鳥取砂丘西側一帯
所在地	東伯郡北栄町由良宿 1289-3 (ほか) (コナン大橋北側)	倉吉市駄経寺 2丁目 3-4 (ほか) (倉吉未来中心の隣)	鳥取市尚徳町 116 (ほか) (鳥取赤十字病院の隣)	鳥取市浜坂 1390-267 (ほか) (砂丘子どもの国の隣)
	敷地面積	24,083㎡	22,020㎡	65,932㎡ (市有地57,615㎡・民間8,317㎡)
土地所有者	北栄町 (無償提供される予定)	倉吉市 (無償提供される予定)	鳥取市 (無償提供される予定)	鳥取市 (無償提供される予定)、民間 (購入又は賃借が必要であるが、その費用は市ができる限り負担される予定。)
現況	一部に大型遊具(迷路)があるが、北栄町が撤去される予定。	倉吉市菅ラグビー場となっているが、その代替地は市の責任で整備され、県が補償等を行う必要はない予定。	市庁舎があるが、平成31年度末までに市が撤去される予定。	民有地には使用禁止建物があるが、その撤去費用は市ができる限り負担される予定。
そこに立地した場合の施設の基本的な在り方	<ul style="list-style-type: none"> 近くに観光集客施設があり、自動車によるアクセスも良好なので、多くの観光客の利用が見込める。 県下各地からの自動車によるアクセスが良好なので、県民の利用も見込める。 土地が広く平坦なことから、建物は低層とすることも可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地で多くの県民が利用する公共施設に近接し、周辺からの交通アクセスも良好なので、県民の日常の利用が見込める。 周辺に観光施設等もあるので、観光客の利用も見込める。 土地が広く平坦なことから、建物は低層とすることも可能。 	<ul style="list-style-type: none"> 市街地で多くの県民が利用する公共施設に近接し、周辺からの交通アクセスも良好なので、県民の日常の利用が見込める。 周辺に観光施設等もあるので、観光客の利用も見込める。 必要な延床面積を確保するために、建物は中層(3~5階建て)となる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本有数の観光地である鳥取砂丘の一画なので、多くの観光客の利用が見込める。 県民が日常的に訪れる場所ではないが、こどもの国利用者の誘導も見込める。 傾斜地に小規模な平坦地が分散しており、自然公園法の規制もあることから、建物は分棟化した上で、かなりの部分を地下化することになる。
《立地条件1》 様々な人が気楽に訪れることのできる場所	<ul style="list-style-type: none"> 山陰道が整備されれば、自動車では鳥取・米子から50分程度で来館可能。 北条湯原道路が整備されれば県外からの自動車アクセスが更に便利になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 山陰道が整備されれば、自動車では鳥取・米子から60分程度で来館可能。 北条湯原道路が整備されれば県外からの自動車アクセスが更に便利になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 山陰道が整備されれば、自動車では倉吉から60分程度、米子から90分程度で来館可能。 鳥取自動車道や山陰近畿自動車道が整備されれば県外からの自動車アクセスが更に便利になる。 	<ul style="list-style-type: none"> 山陰道が整備されれば、自動車では倉吉から60分程度、米子から100分程度で来館可能。 鳥取自動車道や山陰近畿自動車道が整備されれば県外からの新たなインターチェンジができれば県外からの自動車アクセスが更に便利になる。 最寄りのJR鳥取駅には、特急列車がJR米子駅から60分程度、JR倉
	交通アクセスが便利・容易であること。	<ul style="list-style-type: none"> 最寄りのJR由良駅には、快速列車がJR鳥取駅・JR米子駅から40分 	<ul style="list-style-type: none"> 最寄りのJR倉吉駅には、特急列車がJR鳥取駅・JR米子駅から30分 	<ul style="list-style-type: none"> 最寄りのJR鳥取駅には、特急列車がJR米子駅から60分程度、JR倉

	<p>程度で到着する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR 由良駅から650mで、バス停も近く、その間の歩道も広い。 ・JR 倉吉駅からは約10km離れており、そこからの路線バスは23便/日程度が運行されている。 ・鳥取空港から連絡バスが運行。 ・由良駅からのタクシーが、町の助成により片道340円で利用可能。 ・国道9号等からの自動車アクセスは良好。駐車場も十分に確保可能。 	<p>程度で到着する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR 倉吉駅から約3km離れているが、最寄りのバス停には約130便/日の路線バスが運行されている。 ・周辺の道路事情も良く、駐車場も隣接施設との共用、専用区画の整備等で十分に確保可能。 	<p>吉駅から30分程度で到着する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR 鳥取駅から1km以内で、最寄りのバス停には約250便/日の路線バスが運行されている。 ・循環バス(くる梨)を使えば、他の観光施設へのアクセスも容易。 ・駐車場については、敷地内での確保は難しいが、隣接する鳥取市民会館が竣工から50年経過することとなり、美術館の着工時期を見据えながら、近い将来そのあり方を検討していく必要がある、移転により駐車場確保も視野に入れることが可能。 ・日常的なアクセスが可能な地域内に居住・通勤する者が最も多い。 	<p>吉駅から30分程度で到着する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR 鳥取駅から約6kmから離れているが、最寄りのバス停には18便/日程度の路線バスが運行されている。 ・循環バス(麒麟獅子)も運行。 ・自動車でのアクセスは良好だが、観光シーズンには渋滞が発生する。 ・鳥取市街地から1.5km以上離れている。
<p>イ 他の集客施設や観光施設の訪問客を誘導可能であること。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩圏内に道の駅大栄(年間利用者43万人)、青山剛昌ふるさと館(同10万人)、お台場公園(同4万人)に近く、外国人を含めた観光客の誘導が可能。 ・徒歩圏内に多くの県民が日常的に利用するような物販施設等は少ないが、敷地内に町商工会が集合店舗を建設中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩圏内に倉吉未来中心(年間利用者21万人)、二十世紀梨記念館(同11万人)などがあり、一帯がイベント広場的に活用されている(倉吉パークスクウェア)。 ・徒歩圏内には物販施設も多く、それらの施設の利用者やイベント参加者の誘導が可能。 ・徒歩圏内に白壁土蔵群(年間入込客61万人)などの観光拠点もあり、観光客の誘導が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩圏内にとりぎん文化会館(年間利用者30万人)、わらべ館(同12万人)、仁風閣(同3万人)、鳥取市歴史博物館(同3万人)、県立博物館(同7万人)などの集客・観光施設があり、これら施設の利用者の誘導が可能。 ・徒歩圏内に多くの店舗、事業所等が集積する商店街(平日約7万人が通行)があり、そこを訪れる人の誘導が可能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩圏内に鳥取砂丘(年間入込客130万人)、砂の美術館(年間利用者47万人)などがあり、これらを訪れる観光客の誘導が可能。 ・こどもの国(同16万人)に隣接しており、これを利用する県民の誘導が可能。 ・鳥取砂丘は県民が日常的に訪れる場所ではない(県民利用が少なくなるおそれがある)。
<p>《立地条件2》 地域づくり・まちづくりと連携し易い場所</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・青山剛昌ふるさと館は、家族連れや若者が多く、美術館とは客層が異なると考えられ、連携による相乗効果が十分発揮できないおそれがある。 ・一方、様々な人に訪れて貰って多様 	<ul style="list-style-type: none"> ・倉吉未来中心、二十世紀梨記念館、市立図書館などと連携可能。 ・倉吉未来中心は、文化・芸術活動などで市民に親しまれており、そのホールで美術館の講堂 	<ul style="list-style-type: none"> ・とりぎん文化会館、県立図書館の他、県立博物館、鳥取市歴史博物館、わらべ館などの教育文化施設と連携可能。 ・文化・芸術活動の拠点であるとりぎ 	<ul style="list-style-type: none"> ・こどもの国、砂の美術館、今後整備される砂丘ジオパークセンターなどと連携可能。

ア	<p>他の文化施設や教育施設と連携し易い立地であること。</p> <p>な人や作品とのふれあいを通じて次代を担う人材に創造性を育むことを目指す新美術館においては、その家族連れや若者を取り込んでいくことが重要であり、マンガ・アニメを芸術と出会うきっかけとすることでそうした展開が図れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館の講堂等の機能が大栄農村環境改善センター多目的ホール(約400㎡)により、図書コーナーの機能が北栄町立図書館により補完・拡充される。 ・美術館のギャラリ機能は上記ホールや中央公民館大栄分館ロビー展示場等も利用することにより強化される。 	<p>の機能を補完して連携を強化すれば、そうした活動に幅と深みが増す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市図書館については、職員同士の連携や作品と書籍の相互活用により、美術館の図書コーナーの機能等が補完・拡充される。 ・作品展の開催分担等をして倉吉博物館の展示室(計約880㎡)も利用することにより、美術館のギャラリ機能が補完・拡充される。 ・その他にも倉吉博物館とは、収蔵品や学芸員の相互利用や連携強化を推進したり、緑の彫刻ブルオムナード事業のノウハウ提供などにより、互いの機能強化が図れる。 	<p>ん文化会館のホールで美術館の講堂の機能を補完して連携を強化すれば、そうした活動が更に発展する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県立図書館との連携を強化することで、美術館の図書コーナーの機能等が補完・拡充される。 ・ギャラリ機能については、鳥取市が市民ギャラリー(800㎡程度)として県立美術館内に合築整備し、運営される予定。 ・県立博物館と一体となって効率的に運営していくことや、鳥取市歴史博物館と収蔵品や学芸員の相互利用や連携協力を推進することにより、互いの機能強化が図れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリ機能については、鳥取市が市民ギャラリー(800㎡程度)として県立美術館内に合築整備し、運営される予定。
イ	<p>地域づくりに貢献できる立地であること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・敷地内に町商工会が集合店舗を建設中であり、相乗効果による地域活性化が可能。 ・前田寛治、生田和孝さらには青山剛昌など多く作家を輩出していることもあり、文化的な地域活動、地域づくりへの取り組みが盛んなので、相乗効果による活性化が可能。 	<p>上記施設他、白壁土蔵群や倉吉博物館、その他周辺の物販施設と連携した地域づくりが可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トリエンナーレ美術賞等により文化の創造・発展を図っており、市民と連携してより高度な活動を行うことが可能な地域となっている。 	<p>市街地の中心で商店街に近いことから、美術館に行っただけで立ち寄り易く、地域活性化に貢献可能。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・一方で、住宅や商店が密集する中に立地することになるので、美術館固有の雰囲気を含みとして地域づくりに貢献するという可能性が限定的なものとなるおそれがある。 ・市内には多くの民間ギャラリーがあり、美術に親しむ土壌がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・眺望がよく、日本有数の観光地である鳥取砂丘の一面に立地するメリットが活かせるので、上記施設等と連携して多くの観光客を惹き付けることができ、周辺の観光的な地域づくりに貢献可能。 ・周辺住民の生活地域と離れている。(地域づくりの効果が広がり難い) ・市内には多くの民間ギャラリーがあり、美術に親しむ土壌がある。
《立地条件3》 必要な機能確保 ・施設設備が極力安価で可能な場所	<p>土地が広く平坦で、建築計画上の自由度が高い。敷地内駐車場などの確保も容易。</p>	<p>土地が広く平坦で、建築計画上の自由度が高く、敷地内駐車場などの確保が容易。(候補地の中に既に駐車場が整備されている他、周辺には大規模な駐車場がある。)</p>	<p>土地が道路により2つ(本庁舎敷地と第2庁舎敷地)に分割される上、両地を合わせても他に比べて少し狭いので、建物は中高層化すれば整備可能だが、敷地内駐車場や屋外彫</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自然公園法の建築規制(建物高さ13m以下、建築面積2,000㎡以下、建ぺい率20%以下、容積率40%以下、建物外観は自然との調和を乱さないこと等)により、建物を分棟化し

ア	必要とされる機能を備えた施設を整備可能な土地であること。	・海岸に近く、塩害への対策が必要。	<ul style="list-style-type: none"> ・隣接の史跡(大御堂廃寺跡)は、発掘調査により範囲が確定しており、候補地はその範囲外。当該史跡の区域も屋外彫刻展示などには利用可能。 ・整備費の一部に中心市街地活性化補助金が充当できれば県の整備費負担が3～4億円減少。 	<ul style="list-style-type: none"> ・江戸時代の城下町遺構が良好な状態で残っていることが明らかになっており、美術館着工前に埋蔵文化財調査が必要。(その費用は市ができる限り負担される予定) ・整備費の一部に中心市街地活性化補助金が充当できれば県の整備費負担が1～2億円減少。 ・ギャラリーを鳥取市が合築整備されるので、県としては整備費が9～11億円(※1)程度減少し、運営費も毎年1千万円(※1)程度減少。 ・土壌中に処理に費用のかかる自然由来の有害物質(自然由来なので色々な所で検出される可能性がある)が含まれることが明らかになっている。(その費用は市ができる限り負担される予定) ・市庁舎新築移転に関する住民訴訟が係争中(平成28年9月30日鳥取地裁棄却・同日控訴)。 	<ul style="list-style-type: none"> ・千代川氾濫時には1～2mの浸水が想定されている(100年に1回程度降る大雨が前提)。 ・地盤は比較的堅固。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水は想定されていない。(100年に1回程度降る大雨が前提) ・地盤は比較的堅固。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ギャラリーを鳥取市が合築整備されるので、県の整備費は9～11億円(※1)程度減少し、運営費も毎年1千万円(※1)程度減少。 	<ul style="list-style-type: none"> ・飛砂や塩害への対策(展示・収蔵設備の気密性強化など)が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水は想定されていない。(100年に1回程度降る大雨が前提) ・地盤は比較的堅固。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水は想定されていない。(100年に1回程度降る大雨が前提) ・地盤は比較的堅固。
イ	防災上安全な土地であること。(※2)	・浸水は想定されていない。(70年に1回程度降る大雨が前提)	<ul style="list-style-type: none"> ・天神川氾濫時には1～2mの浸水が想定されている。(100年に1回程度降る大雨が前提) ・地盤は比較的堅固。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水は想定されていない。(70年に1回程度降る大雨が前提) ・地盤は比較的堅固。 	<ul style="list-style-type: none"> ・天神川氾濫時には1～2mの浸水が想定されている。(100年に1回程度降る大雨が前提) ・地盤は比較的堅固。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水は想定されていない。(100年に1回程度降る大雨が前提) ・地盤は比較的堅固。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水は想定されていない。(100年に1回程度降る大雨が前提) ・地盤は比較的堅固。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水は想定されていない。(100年に1回程度降る大雨が前提) ・地盤は比較的堅固。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水は想定されていない。(100年に1回程度降る大雨が前提) ・地盤は比較的堅固。 	<ul style="list-style-type: none"> ・浸水は想定されていない。(100年に1回程度降る大雨が前提) ・地盤は比較的堅固。

※1 これらの金額は、延床面積12,240㎡・整備費70～100億円・年間運営費4億円の美術館を整備することを前提に、一般的だと考えられる想定の下に行った大まかな試算値であり、想定どおりにならないならばかなり変動すると思われまます。

※2 鳥取県では潜在断層による地震が多く、各地域の地震に対する安全性を既知の断層や震源からの遠近等で判断することは困難なため、候補地評価等専門委員は、各候補地の近くで地震が発生する恐れのない大小ではなく、その地下が地震発生時に被害が大きくなるような地質構造をしているかどうかで「地盤が堅固」等と評価されています。

美術館の施設設備や運営費等の試算について

機能と施設設備

現在の施設では十分に果たせなくなっている収蔵展示機能や、地域や県民との協働・連携を促進するための機能を充実させるため、作品の保存・展示に最適な環境を維持できる設備を備えた収蔵庫や展示室を拡充したり、ワークショップ専用ルーム等を新たに設けることを考えています。そのような施設は、延床面積が9千～12千㎡ほど必要で、建築工事費は60～100億円程度かかると想定されます。これを建設することにより98～164億円の経済波及効果も見込まれます。

運営費

新しい美術館は、1年を通じて多様な展覧会や各種イベントを開催することで、年間10～20万人の方々にご利用してもらいたいと考えています。そのために必要となる経費を現在の運営費に加算し、新たな美術館の運営収支を試算すると、毎年の運営費総額は3.2～3.9億円で、従来の美術分野運営費の1.3～1.6倍となります。こうした運営によって12～16億円の経済波及効果も見込まれます。

今後、この運営費等をできるだけ縮減するため、美術館の整備運営に民間の資金やノウハウ等を導入する方法（指定管理、PFI等）も検討します。



館内設備イメージ例（キッズスタジオ、金沢21世紀美術館）
画像提供：金沢21世紀美術館

立地について

新しい美術館は、「様々な人が気楽に訪れることができること」、「地域づくり・まちづくりに貢献できること」、「必要な施設がより安価に整備できること」といった条件を満たす場所に建設しなければ、機能を十分に発揮して設置目的を達成することはできません。地元の市町村と協力してより大きな効果をもたらす施設とするため、市町村にそうした立地条件に合う場所を候補地として推薦してもらい、最もふさわしい場所に立地させるよう検討しています。

* 施設・設備のモデル（延床面積の試算を含む）、建築工事費、運営費の試算等は、皆様に美術館の在り方や必要性等を考えていただくための目安として、他県施設を参考に一つのモデルを想定して試算をしたものであり、決定された整備内容等を示すものではありません。

新しい美術館ができると、私たちの暮らしは、どう変わるのでしょうか。

美術館で、多くの鳥取ゆかりの美術作品に日常的に触れることができるようになり、地域への誇りが育まれます。国内外の優れた美術に今よりも多く出会えるようになり、多様な文化への感受性が培われます。そうして私たちの暮らしは、豊かで潤いのあるものとなり、地域社会の魅力も高まって、県外との交流も進みます。また、次代を担う子どもたちが本物の美術に出会い、魂を揺さぶられる体験をすることで、豊かな個性と創造力をもった人材が育ちます。彼らに支えられて鳥取県の未来が切り拓かれていくのです。

さあ、はじめよう、みんなの美術館づくり。

鳥取県美術館整備基本構想の検討状況をお知らせします。



県立博物館で開催したワークショップ「落書きばんざい！」の様子

私たちは、鳥取県立博物館の美術部門を、未来の鳥取を創造する独立した美術館として次のように生まれ変わらせたいと考えています。ぜひページをめくってご覧ください。

開館後40年以上が経過した鳥取県立博物館は、次のような課題を抱えています。

- 建物の老朽化
- 収蔵庫の過密化
- 駐車スペースの慢性的な不足
- 施設設備の制約による展示の更新や体験型展示の導入の困難
- 県民の作品展の開催が十分にできない など

そこで鳥取県教育委員会では、3つの分野（自然・歴史・民俗・美術）のうちの美術分野を独立させ、鳥取県の新たな文化教育拠点として美術館を整備したいと考えています。どのような美術館にすべきかについては、現在、美術や文化施設運営の専門家、利用者の立場を代表する方々等で構成する「鳥取県美術館整備基本構想検討委員会」で検討しています。

ひと、もの、こと、
過去、現在、未来、
鳥取、日本、世界、

つなげよう、美術館で。
ひろげよう、美術館で。

いま、なぜ美術館が必要なのでしょうか。

人口減少の時代に地域を再生・発展させるためには、その地域固有の自然風土や歴史文化を守り、さらに磨いていくことが欠かせません。なかでも美術／アートは、過去-現在-未来をつなげ、継承・発信・交流等の取組により、県民の創造性や地域の魅力を向上させるものです。その拠点となる美術館は、子どもたちの創造力を育み、鳥取県の創生を図るために不可欠の社会インフラであり、早急に整備する必要があります。

新しい美術館は、何をめざすのでしょうか。

「鳥取県にゆかりのある美術を蓄積・継承すること」と「国内外の優れた美術を鑑賞・学習する機会を提供すること」が新しい美術館の活動の目的です。このような活動を通じて私たち一人ひとりの文化的な創造性が高まり、地域の文化的な魅力が増していくことで、県内外からさらに多くの人々が集まってくる。そんな新たな交流と発展の核となる美術館をめざします。

新しい美術館では、 どんなことを行うのですか。

■ 鳥取県にゆかりのある美術作品を中心に収集し、保管します。

- 本県にゆかりのある作品を中心に、さまざまな作品を体系的・計画的に収集します。
- 適切かつ安全な環境のもとで作品を保存、管理して次世代につなげます。
- 収集作品をジャンル別に専用の常設展示室にて紹介し、いつでも美術作品が鑑賞できる環境を整備します。



前田寛治の作品を中心とした展覧会「昭和の洋画を切り拓いた若き情熱」会場／2016年



「ベルギー王立美術館コレクション」展 会場の様子／2009年

■ さまざまなジャンルの展覧会を開催します。

- 国内外の著名作家による展覧会を開催し、鳥取と日本、世界をつなげる機会を提供します。
- 鳥取県ゆかりの作家の展覧会を開催し、文化的個性の醸成に寄与します。
- マンガやアニメなど様々なポップカルチャーについて積極的に紹介します。
- 館内のフリーゾーンや野外のオープンスペースで気軽に美術に親しめる環境をつくります。

■ 多彩なプログラムによる教育普及活動を行います。

- ワークショップルームを設置し、体験しながら学べるプログラムを充実させます。
- 家族や子どもを対象とした美術鑑賞のプログラムを提供します。
- 県内の小学校3年生全てを、年に1回美術館に招待するなど、児童生徒の来館を促進する事業を実施します。



ワークショップ「線の森を探検-ビニールトンネルに入っちゃお!」の様子／2013年



高校生キュレーターによるギャラリートーク／2015年

■ 収集資料をもとに館外の研究者等との調査や研究を行います。 ■ 県民のみならずと協力して、様々な事業を行います。

- 収集した作品や資料に関するデータベースを構築し、館外の研究者や一般の方々へ広く情報を提供します。
- 県民ギャラリー等、県民の創作発表等の場を提供します。
- ボランティアスタッフと共に、資料調査や普及活動を実施します。
- エントランスホールや野外オープンスペース等で美術系古本市やアート系フリーマーケット等を開催します。
- 美術サークルやNPO団体などの絵画教室、陶芸講座等を行います。
- キッズルームを設置し、絵本の読み聞かせ会等楽しみながらアートに触れる機会を提供します。
- 国内外から作家を招き、専用のスタジオで制作・発表を行うアーティスト・イン・レジデンス事業を実施します。

本ページの画像は、県立博物館美術部門で実施した事業の様子を掲載しています。